

環境被害に関する国際フォーラム

3rd

水俣病・失敗の教訓を 将来に活かす

水俣病患者の発生が公式確認されてから62年が経過している。産業活動による広範な環境汚染を通じて重篤な患者が発生したこと、胎盤を通じて次世代にも重大な影響を与えたことなどは人類が初めて経験したものであった。また、この水俣病事件は、政治、経済、法律、社会、文化など各方面に大きな影響をもたらしたのである。さらに水俣地域や新潟では、被害者達は今なおその傷が癒えておらず、問題も全て解決したとはいえない現状がある。2006年、2013年に続く、第3回国際フォーラムは、研究者だけによる国際会議ではなく、国内外の公害被害発生地域の被害住民、研究者、NGO/NPO支援者らによって構成される。被害者の視点にたち、公平と正義に基づく実践的な議論の場となることであろう。

2019

2/22 (金)

9:30 ~ 18:30

熊本学園大学 高橋守雄記念ホール

記念講演 宮本 憲一 (大阪市立大学名誉教授)
「公害被害の補償と地域再生、将来の課題
—水俣病を中心に—」

基調講演 花田 昌宣 (水俣学研究センター長)

セッション1 「被害の現状報告とアピール」
カナダ・中国・韓国
および新潟・水俣からの報告

セッション2 「問題解決に向けて」
カナダ・中国・韓国
および新潟からの報告

2/24 (日)

9:30 ~ 17:00

水俣市公民館 2階ホール

セッション3 「健康被害と地域再生の
取り組み—多様な道筋—」
カナダ・中国・韓国
および新潟・水俣からの報告

セッション4 パネルディスカッション
「将来の課題と国際連携」

*22日、24日ともに参加無料です

お問い合わせは

熊本学園大学

水俣学研究センター

096-364-8913

minamata@kumagaku.ac.jp

主催 第3回環境被害に関する国際フォーラム実行委員会

協力・後援 日本環境会議/福島大学つくしまふくしま未来支援センター

後援 熊本市、水俣市

開催趣旨：経緯と意義

水俣病患者の発生が公的確認されてから62年が経過している。産業活動による広範な環境汚染を通じて重篤な患者が発生したこと、胎盤を通じて次世代にも重大な影響を与えたことなどは人類が初めて経験したものであった。また、この水俣病事件は、政治、経済、法律、社会、文化など各方面に大きな影響をもたらしたのである。さらに、水俣地域や新潟では、被害者達は今なおその傷が癒えておらず、問題も全て解決したとはいえない現状がある。

熊本学園大学では、2000年に原田正純を中心に水俣学研究プロジェクトを開始し、水俣病事件を様々な分野から多角的に捉え、水俣病の教訓を世界に発信し、未来にその教訓を残すような研究を行ってきた。2005年4月には水俣学研究センターを設置し、大学内および水俣現地に研究センターをおき、調査・研究・教育活動を行ってきた。また、カナダ、タイ、韓国、台湾などをはじめとする公害被害発生地域の調査研究ならびに交流も実施してきた。

私たちは、2006年夏に「水俣の教訓は活かされたか」という問い掛けを国内外に発する国際フォーラムを開催した。その後、日本では東日本大震災と福島原発事故を経験した。国外でも公害、環境破壊が多く発生するとともに地域住民・被害者の運動が各地で続いている。

2013年に、長期継続的な国際交流と水俣学の国際発信を願って、第2回国際フォーラムを開催した。これは、水俣学の理念と方法に則り、国境を超え、学問の分野を超え、専門家と市民の分断を超えた取り組みによって、水俣の負の遺産（失敗）を繰り返すことのないような世界を構築することをめざすものである。

第3回国際フォーラムは、研究者だけによる国際会議ではなく、国内外の公害被害発生地域の被害住民、研究者、NGO/NPO支援者らによって構成される。このフォーラムは、被害者の視点にたち、公平と正義に基づく実践的な議論の場となることであろう。

ここでの課題は以下の三点に集約される。

- 1) 日本において起きた水俣病が引き起こした被害につき、その教訓が日本国内のみならず世界において、どのように活かされたか、あるいは活かされなかったかどうかを検証する。
- 2) 世界各地の環境汚染が引き起こされ被害が発生している地域において、日本の経験が教訓としていかされたかどうか、各地で進められている環境復元の取り組みについて経験の共有をはかり、現在の課題は何かを相互理解を深める。
- 3) 世界各地で起きていることに関する共通認識を深め、水俣の教訓が活かされるのはいかにすれば可能であるかを検証し、将来に向けて発信する。

各国における環境被害と報告者

カナダ：カナダ水俣病事件

ドライデン市にあったリード社のパルプ工場で漂白剤を作る過程に用いられていた水銀が、イングリッシュ・ワビグーン川水系に廃棄され、有機化した水銀が食物連鎖を通じ住民が水俣病となった事件。イングリッシュ・ワビグーン川水系にはグラッシー・ナロウズとヴァバシムーン2つの先住民居留地がある。1969年オンタリオ州政府は、同州の水銀汚染調査を実施し、同水系が汚染されていることを確認したものの健康障害は起きていないと報告した。しかし、原田正純らが1975年に調査し、水俣病の神経症状を持つ住民を多数認めた。カナダ独自の症状の点数制度に基づいた補償がなされているが、健康障害を抱えていても認められないケースも多く、社会問題となっている。



マービン マクドナルド
ヴァバシムーン代表



ジュディ ダシルバ
グラッシーナロウズ代表



ルディ タートル
グラッシーナロウズ代表

中国：淮河水汚染問題

1994年、中国の黄河と長江の間を流れる淮河で産業開発にともなう深刻な水汚染問題が明らかになった。150万人以上の人々の飲用水を提供していた淮河の周辺住民によって健康被害、魚等の斃死などの環境汚染を社会問題化したことで、国務院により産業排水の排出基準の達成目標等が策定された。しかし、急速な工業開発の進展と経済成長によって、新たな環境問題が起きている。それとともに、日本では報道されることは少ないが、環境汚染発生地域における住民運動等も起きており、日本の公害の経験に学び、中国国内の公害発生の防止および対策を進めていくことが国家的課題となっている。



フオ ダイシャン
淮河水系生態環境科学研究中心



チョウギョクリン
南京大学教授

韓国：加湿器殺菌剤事件

1994年から韓国法人オキシー・レキット・ベンキーザーが販売した加湿器用殺菌剤に含まれるポリヘキサメチレンファンジジンにより死亡者が出て、2011年に韓国政府の疫学調査と動物実験で健康被害が確認され同年使用禁止となった事件。韓国政府は、加湿器殺菌剤被害申請の受付を2015年12月31日で締め切ったが、その後も環境保健市民センターなどへの被害申告が続いている。2016年4月までに韓国政府と民間組織に届けられた被害者は1848人にのぼり、うち死亡者は266人、被害者は3歳前後の幼児と30歳代の産婦が半数を超えている。2017年控訴審では、オキシー・レキット・ベンキーザーの元社長に懲役6年の実刑判決が言い渡された。韓国政府は被害補償・実態把握のための委員会を立ち上げ、調査をしている。



チョ スンミ
加湿器殺菌剤被害者



チェ イェヨン
大韓民国政府社会的惨事特別調査委員会
副委員長

日本からの報告

新潟・水俣：水俣病事件



萩野 直路
新潟水俣病第3次訴訟を支える会
事務局（新潟）



水澤 洋
水俣病患者（新潟）



斎藤 恒
新潟勤労者医療生活協同組合
木戸病院名誉院長（新潟）



佐藤 英樹
水俣病患者・水俣病被害者互助会（水俣）

【記念講演】



宮本 憲一
大阪市立大学名誉教授